

町政の執行方針と教育行政執行方針は、孔雀草166号、広報たかす4月号と同時配布の「私たちのまちづくり」に掲載されていますので、合わせてご参照ください。

第1回定例会

平成29年3月9日～15日

第1回定例会は、3月9日から7日間の会期を持って開催し、平成29年度の町政執行方針及び教育行政執行方針の報告を受けた後、6名の議員が一般質問(14～19ページ)を行い、町長の考えをたどしました。

議事は、補正予算、条例の制定・改正・廃止及び平成29年度の7会計予算を審議し、全会一致で原案のとおり可決しました。(20～21ページ)

また、2件の人事案件について同意し、会期どおり3月15日に閉会しました。

実現に向けて

Q. 青野議員
地域防災に対する住民の意識や普及の啓発など、今後の考え方は。
A. 9月1日の防災訓練は、29年度は鷹栖地区で行います。7月から8月に消防団との訓練も計画しています。「お互い様づくり行動計画」の中で避難行動要支援者の名簿も作成しているもので、これを使った連携のモデル地区を10地区から、新年度は3地区追加して取り組んでいきます。

防災意識の啓発

消防団員の確保

Q. 片山議員

消防団員の確保に向けた新たな工夫は。女性への呼びかけの推進はしていくのか。
A. 新たな手法は考えていません。今後も積極的に若い人たちを勧誘していきます。

女性団員について現在のところは考えていませんが、状況の変化にに応じ、今後検討していきたいと思っています。



消防演習

窓口はどくに

Q. 日下議員

安心安全とひと口に言っても内容によって様々な窓口があるが、これを分かりやすい形にする考えは。
A. 役場のどの課に来ていただいても連携をとって対応していきます。

町内会加入推進

Q. 辻本議員

町内会についてどう考えているか。私は町内会への加入は義務であり、義務を

果たさず行政サービスを受けるのは不公平だと思ってしまう。改築や新築、農業、子育てなどの助成は町内会を通じて行うべきでは。
A. 家族の次に身近な組織であり、大事なものと考えています。新築、改築等の助成の際は町内会加入の誓約をしております。その他の補助等については町税の滞納がないことなどが要件となっています。

- 心豊かな子供たちを育む環境づくり
- 安全・安心と
新たな可能性へ挑戦する農業づくり
- 地域資源の育成や発掘による
産業経済の魅力づくり
- だれもが安全に
安心して暮らせるまちづくり
- 手と手をつなぐ協働の地域社会づくり

平成29年度
まちづくりの方針
～5つの基本施策～



五つの基本施策の

新規就農者支援

Q. 舟根議員

30年度開設予定の担い手研修センターは施設型農業中心だが、土地型での新規就農希望者への資金面の支援も含めた対策は。また家族間の継承と第三者継承のどちらを推奨していくのか。

A. 資金面を考えれば家族間がスムーズだが、今ままで進めていて現状があることも踏まえ、いろいろなパターンを考えていくことが必要と考えています。

雇用の促進

Q. 青野議員

雇用の場の確保は定住対策としても重要。雇用促進対策としてどんなことを想定しているか。

A. 雇用促進対策には町内の雇用を促すため、町内企業が町民を雇用した場合に助成金を出していることなどを含んでいます。

工業団地への企業誘致や新規開業支援など、町内で

起業してもらったことも含め考えていきたい。

企業誘致推進

Q. 中村議員

外部機関への企業誘致推進事業委託とは外部への丸投げではないのか。どういう取り組みなのか。

A. 外部機関とはシンクタンクを想定しており、そこでアドバイスを情報ももらいます。営業活動はあくまで町の担当者が向うに行います。

新たな地域資源

Q. 中家議員

ふるさと納税の返礼品に文芸誌「新郷土たかす」を入れることで、町の歴史や文化などの地域資源を知ってもらうことができるのではないか。

A. 毎年継続して発行しているというのは他の地域では見られず、価値のある文芸誌と認識しています。おもしろい提案ですので、編集委員会とも相談し、検

討したいと思います。



新郷土たかす

移住定住

Q. 舟根議員

移住定住のPRはどう強化していくのか。またどこにポイントを置くのか。

A. 移住されてきた方の声を中心にした新しいパンフレットを作成中です。

動画にも新規就農された方の生の声を出させてもらっています。移住定住相談会などで直接お話しをするということも効果があるので、今後も継続していきます。

農業というの大きなポイントですし、人と人の繋がりがちょうどよいということも安心感につながると思います。

Q. 片山議員

移住定住の動画の再生回数をみると伸び悩んでいる状況と思われる。

動画だけでなくSNSやWEBページについても専門家の意見を取り入れながら効果的なPRをしていく考えは。

A. 移住相談会で動画を見せるなど活用しています。鷹栖町の知名度そのものを上げていくよう地道に努力していきたいと考えています。

移住定住の数値目標は 社会増減ゼロを目指す

※注

社会増減とは転入や転出によるもので、自然増減（出生や死亡）を含みません。

ここで町長が言っているのは、人口を減らさないということではなく、転出分を移住等による転入で補うという意味です。

Q. 中村議員
新築・改築の支援事業で132名が移住しており効果があったと考える。新年度はこの事業で何名の移住を目指すのか。

A. 平成31年度に向けて社会増減をゼロにするという目標を掲げています。



高齢者支援

Q. 大石議員
老人会活動や高齢者事業団の減少傾向を抑えることができないか。

A. 時代が変わり高齢になったときの生き方・考え方も変わってきていますが、今までの経験が生かせるよう、活動の支援をしていきたいと考えています。

鷹栖高校

Q. 植西議員
クロスカントリースキーが盛んという地域特性を生かし、中学卒業後も鷹栖高校で継続していただけるような取り組みをすると、特色ある学校づくりにつながるのでは。

A. 道立高校ということで制約もあるので実現にはハードルが高いと思いますが、チャンスをあきらめず働きかけなどしていきたいと思えます。

Q. 青野議員

鷹栖高校の卒業生を鷹栖町で優先して雇用するということとはできないか。

A. 嘱託職員については

鷹栖高校の卒業生1名分の枠を設けています。平成28年度は実績がありませんでしたが、29年度は希望があり、採用する予定です。



鷹栖高校前景



「生き抜く力」を確実に

体育施設の指定管理

Q. 片山議員

体育施設の指定管理は、費用が下がらなくてもサービスが向上するのであれば導入の意味があると考えますが、費用とサービスのバランスについての考えは。

A. サービスについては体育協会とも丁寧に話しながら慎重に進めていきます。1年間の中で、雇用など様々な面について慎重に検討していきたいと考えています。

自然体験

Q. 植西議員

自然に触れ合う中で子供たちに考えさせるような教育の必要性についての考えは。

A. 鷹栖小では小鳥の村で野鳥観察、北野小ではオサラッペ川の水质調査など、色々な経験をしています。今後も学校と協議し、自然体験を進めていきたい。

学力の状況

Q. 片山議員

全国学力学習状況調査で課題があるとされる特定の領域とは、小学校の国語A（主に知識・基礎を問うもの）とのことだが、この状況をどう分析し、どのように解決に向けて進めていくのか。

A. 全国平均よりは低いが全道平均以上にはなっています。学習支援員や特別支援員の活用により、学力の底上げをしていきたい。

Q. 斉藤議員

全国学力学習状況調査の「平均点」というものについて、どう考えているか。平均点より学ぶ喜びを大切にしたい。

A. 分からないものを分かるようにすると自然と平均点も上がると考えています。先生たちとタッグを組みながら頑張っていきたいと思えます。

コミュニティスクール

Q. 日下議員

すでに学校評議員制度がある中で、コミュニティスクールについてどのような考えで検討していくのか。町全体で一つのコミュニティスクールという考えか。

A. 北海道教育委員会の方針のとおり、平成32年迄に導入したいと考えています。市町村に一つあれば良いとのことですが、学校ごとに取り組んでいるケースもあるので、1年間検討していきます。

柔軟な地区公民館事業

Q. 大石議員

鷹栖地区や北野地区は公民館活動が活発だが、他の地区の住民が参加することができない。柔軟な対応を考えられないか。

A. 定員や費用の関係もありますが、余裕があれば受け入れもできると思うので、ぜひ参加したいという

事業があれば各公民館の運営委員や主事に相談してください。

句碑の森

Q. 辻本議員

「北成地区の句碑の森」という記述があるが、北成地区の住民としてはそういう認識はしていない。訂正すべきでは。

A. 中央地区にも一部かかっていますが、私としては北成地区という認識です。

Q. 青野議員

句碑を建立している方々との繋がりを大事にすることは交流人口を増やすことにもつながる。新たに案内を出すなどの取り組みが必要では。

A. 主体となる保存会とも充分協議し進めていきたいと思えます。